

四国エクストリームチャレンジ2007

優勝チームコメント

V2K guess? 高濱 康弘 さん

■ チーム編成

10月某日。顎紐組のまどかさんより、チーム編成のオファーがあった。今やAR界でも一大勢力となった「V2K (ぶっつけ)」の人脈を期待してのオファーだ。早速そのオファーに答えるべく、V2Kメンバーに募集をかけるも、みんな都合がつかず不発という事態に。

しかし、2007年シリーズ戦準優勝で得た無料招待枠を使わない手はない! ということで、顎紐組のまどかさん、マイメロディーのタケ、V2Kのハニワという普段ばらばらのチームのメンバーで出場することとなりました。

■ レース初日

早速、四国大会の目玉。吉野川ラフティング。ラフティングは2チーム合同で乗り込む。同乗するチームはくじ引きで決まる。

我々と同乗するチームは、今大会の優勝候補、四国のAR界を牽引している、「野猿(NOZARU)」のエースチームだ。そういえば、チーム紹介でも「優勝するぞ!」と宣言していたっけ。

水物に強いタケの指示や、野猿の強力な漕ぎもあり、我々の艇は、6番手スタート(1分おきにスタートする。)にもかかわらず、最終的にはトップに。それにしても、11月の吉野川は水量こそ少ないものの、透明度が高く気持ちがいい。

続いて、これまた四国大会の第二の目玉。舗装だらけ(Only?)のMTB。

舗装路を登る。登る。ひたすら登る。引っ張る。日が暮れる。疲れる。下る。また登る。この時点で、暫定2位。どうやら10分先を野猿が走っている模様。

見上げると空には満天の星。放射冷却で気温も低下。四国とは言えども、標高があるとやはり寒い。CPで凍えた体を待っていたのは、地元のボランティアの方々(しかも、おばあちゃん)のあったかいお茶。生き返りました。多謝多謝!

ここからゴールまではトレッキング。

細かい地図読みのミス、ちょくちょく修正しながらのレース展開。どうやら周囲に2~3チーム分のヘッドライトがちらついている。他チームも迷走している。我々のチームはいち早く正しいルートを見つけ、「ヘッド灯消灯作戦」を決行した。

「ヘッド灯消灯作戦」が功を奏したのか、スピードの無い我々のチームも、野猿の追走をぎりぎりかわすことができ、なんとか初日暫定首位でゴールすることができた。野猿との差は1分。余裕は無い。

ゴールでは、塩塚高原キャンプ場の支配人に、めちゃくちゃうまい、おでん・豚汁・おにぎり・いものてんぷらをご馳走になりました。暖かいお風呂にも入ることが出来、初日終了。支配人ありがとうございました。

■ レース2日目

チームチャレンジ。5種目。

終わってみると、初日の上位3チームがやはりこのセクションでも上位争い。ほとんど差は無い。チームチャレンジが終了した時点で、次のトレッキング用の地図が配られる。

配布された地図を見てトレースするルートをプランニングする。地図読みが難しそうな箇所は見当たらない。ということ。は。。。スプリントレース? スピードの無い我々にとっては不利な展開だと思った。しかし、彼ら(野猿)が迷うとしたら、ここだという箇所はある。まだ望みはある。(と、私は思った。タケはこの時点で野猿が迷うことを確信。)

トレッキングセクションの最初のCPは山のピーク。森林限界を超えている為、先行しているチームを遠くからでも確認することが出来る。一面の壮大なススキの中を野猿が先行しているのを確認する。

それからいくつかのCPを野猿と着かず離れずの距離で保ち、問題のエリアに突入。地図にはないトレイルを野猿は駆け下りていった。。。そして、消息を絶った。題して、「わざと先に行かせる作戦」。

タケの確信が現実のものとなり、MTBセクションに移った時には、首位に立っていた。そして、舗装MTBダウンヒルを経てゴール!

後ろから戦局を伺い、精神的ゆとりを持ってレースを展開したのが勝因でしょうか。（事実、野猿は相当プレッシャーを感じて、焦っていたとの事。）

■ 打ち上げ

レース終了後は高松へ移動。今夜は、野猿のメンバーが関東勢をおもてなし。うどんすぎ、うまかった。

我部さん、今井さんも合流し、野猿のARへの熱き（暑き？）思いについて語ったのでした。野猿の皆さん、ありがとうございました！

（我部さんのフォローをしますと、四国は道路整備に対する助成がしっかりしている為、ほとんどの道が舗装されており、シングルトラックはおるか、ダブルトラックですら探すのが難しいそうです。それでもタケは「もっと探せ」と。。。）

■ レース翌日

野猿のこーちゃんが、高松のうどん&シングルトラック下りツアーを敢行してくれました。うどん。うどん。うどん。みかん。りんごジュース。そしてうどん。シングルトラック下りでは、まどかさんが苦戦。レースでシングルトラック下りがあったらやばかった！（このときばかりは、タケも我部さんに感謝したのでした。）

と、課題も見つかりましたが、大変楽しい四国大会でした。関東勢のみなさん、来年は是非、四国大会参加しましょ。（なんと、今年は北海道からの参加チームもありました。タフです。）